

省エネへの対応には従業員の“経営者意識”が大切

——五月女総合プロダクト(株) 代表取締役社長 五月女善重氏

——省エネへの対応には何が重要でしょうか。

「例えば、従業員も自宅で使用していない部屋の照明を消すなど、家庭では自然と節電をしていますが、その意識を職場でも持てるかが大切ではないでしょうか。企業として消費電力を抑えた機器を導入することも必要ですが、その機器を最大限に活かすのは個々の意識だと思います。最近はデマンド装置による消費電力の“見える化”が話題になっていますが、これは従業員の節電意識を高めるためのものと聞いています。これも導入して安心するのではなく、活用されてこそ意味があるものです。やはり省エネ対応では従業員の意識を高めておかなければ、省エネ機器も有効には使えないと思います」

——機器の導入も大切ですが、まずは省エネへの意識向上が必要だということですね。

「そうです。とうぜん経営者であれば無駄なコストは削減しようとを考えますが、現場の従業員も同じ目線で考えることが

省エネ対策では求められると思います。ですから現場で働く従業員一人ひとりが経営者意識を持つことが重要です。しかし、社会的責任のある企業として省エネは大切なことですが、サービス業として忘れてはならない点もあります」

——それは、どういうことでしょうか。

「会議の中で各店舗長に光熱費に関する報告をさせていますが、特に電気料金で

は単純に前年と比較できない点もあります。エアコンが一番分かりやすいですが、同じ夏場でも暑い年もあれば涼しい年もあります。気象条件は日によっても異なりますので、とうぜん設定温度も変わらるはずです。しかし、暑い日に節電のためと温度を高めに設定しても、お客様が汗をかきながら遊技をしていてはサービス業として本末転倒だと思います。私は日頃から“お客様目線”で考えなさいと従業員には話していますが、節電を意識するあまりお客様に不快感を与えてしまってはなりません。そこで現場の責任者にとって省エネ対応も重要な業務ですが、良質なサービスも同時に提供するというバランス感覚が必要だと考えます」

——省エネも大事ですが、サービス業としての本分も忘れてはならないと――。

「節電でも一概に消費電力を抑制できたからよいということではなく、あくまでお客様目線に立った省エネへの対応が大切です。それには従業員の意識を高めることが、まず必要ではないでしょうか」

